

〈新木場〉気になるスポット 「東京木材埠頭株式会社」

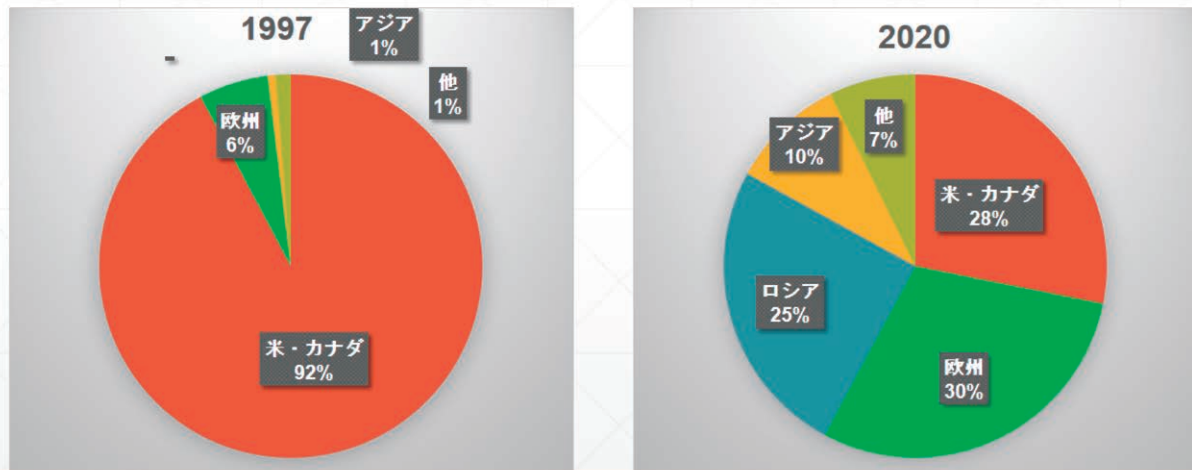
東京木材埠頭株式会社は、日本最大の木材消費地である首都圏の玄関口、東京港にある保税倉庫会社です。木材専門埠頭として、東京都の港湾政策に基づき、施設の管理・運営をおこなっています。

敷地面積は東京ドーム6個分に相当する約26万平方メートル。木材の収容能力は、最大約21万（野積6万／上屋15万）立方メートル。木材専門埠頭を備えた日本で最大の木材集積地です。世界各地から集まる木材製品を取り扱い、首都圏を中心とした広範な周辺市場の流通基地として、重要な役割を果たしています。



北米、ヨーロッパ、ロシア、中国、東南アジアなどを原産国とし、これまでの素材製品の輸入から、現在では、日本の住宅工法に合わせた多種多様な加工製品が主流となり、スピーディーで正確な管理と高品質なサービスの提供をしています。

T L T 輸入製材品の原産国比率 （23年前）



弊社は、1973年2月に設立されました。設立にあたっては木材にかかわる輸入・流通・港運の3業界から広く出資を仰ぎ100%民間資本の保税倉庫会社としてスタートいたしました。

2004年7月、「改正SOLAS条約」が施行され、人と車両の入出管理等が義務付けられました。これに伴い、同年8月には「ゲートウェイシステム」を導入し、スムーズな入出門と高いセキュリティーを両立させています。24時間365日警備員が常駐して不測の事態に備えています。



弊社は、さまざまな安全対策を講じています。構内全域に即座に^{しら}報せる緊急地震警報装置。大規模な災害が発生した場合に、迅速に業務体制を復旧させる「BCP（事業継続計画）」に取り組み、自家発電装置を設置するなど、災害時でも業務を継続できるよう備えています。構内では、パトロールカーが巡回し、救護や安全の確保、防災などの強化を図っています。



現在59棟に及ぶテント倉庫はLED照明により、環境保護（CO2削減）に取り組んでいます。検品者センターは、お客様に商談やミーティングをしていただくための施設です。インターネット環境を整えた3つの会議室をご用意しています。

また、検品に来られたお客様には、専用のヘルメットとベストを着用していただき、安全な「検品者用ルート」をご利用いただいています。

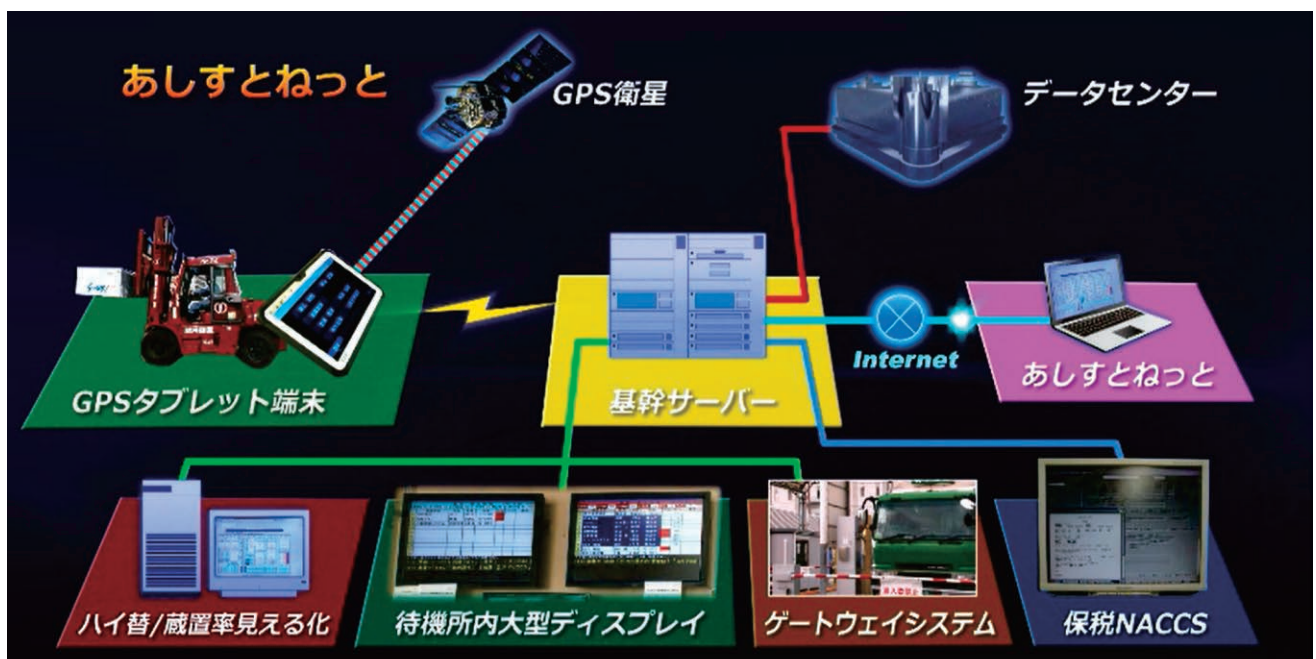


弊社で取り扱う木材製品は約150品種にもものぼります。製品入荷に合わせ、各種情報を網羅したラベルを事前に作成。それぞれの製品は、ラベルに印字されたバーコードで個別に管理され、輸入された木材はフォークリフトで迅速、丁寧な作業をおこなっています。ラップに直接貼れるラベルを使用し、製品毎の入出庫確認および保管場所等の情報を管理しています。



広大な収容規模を持ち、多様な取扱品目に対応するため、独自の情報システムを導入し、拡充を図りながら、効率的な管理・保管の充実に努めています。構内ではタブレット端末を利用し、作業情報の配信と収集を実現しています。

「フォークリフト配車システム」は、構内ネットワークとGPSによる位置情報を絡め、効率的な作業を行うシステムです。これにより、引取時間の短縮とフォークリフトの省エネなどを推進しています。事務所ロビーに設置された「来場者インフォメーションサービス」。タッチパネルの操作で各種情報をリアルタイムに確認することができます。



弊社が2005年からスタートしたお客様向けのWebサービス『あしすとねっと』は、お客様による商品台帳のカスタマイズや各種リアルタイムな情報の閲覧、在庫データのダウンロード等が行え、「名義変更」、「引取予約」の手続きが簡単にご利用頂けます。

『あしすとねっと』システムご利用のお問合せにつきましては、東京木材埠頭(株)営業管理部 (TEL 03-5569-2123担当：浅生山・木村)迄、お気軽にご連絡をお願いいたします。操作方法説明等のご要望がございましたら、直接ご訪問のうえ説明をさせていただきます。



『あしすとねっと』の機能

1. 商品台帳 : お客様の端末毎にレイアウトを自由に変更が可能
 - ・リアルタイムな在庫確認
 - ・名義変更、引取依頼書の発行 (簡単に作成可能です！)
2. 在庫表 : 過去3カ月遡り可能な在庫表出力
3. 日計表 : 弊社全体の出入庫在庫情報
4. 当月保管料予測 : アクセス日におけるお客様の当月20日締め予想継続保管料
5. 実在庫状況 : アクセス時点での構内に蔵置されたお客様の実在庫状況
6. 蔵置場所検索 : 条件に合わせた貨物の蔵置場所の確認
7. 引取車入出門検索 : 引取車両の構内動態確認
8. 引取車台数 : 構内動態の確認
9. 予約処理状況 : 名義変更、引取予約の処理状況の確認
10. ダウンロード : 各種データの抽出、作成
11. 本船／コンテナ状況 : 作業場所とリアルタイムでのコンテナ動態の確認

『弊社は、常にお客様の立場に立ち、最先端の情報システムを駆使した正確な商品の保管管理及び効率的なハンドリングを提供し、お客様が安心してご利用いただける木材物流拠点となるように挑戦し続けます。』

(取材：本西・関野)